

発見できない、駆除できない……

# 恐怖のシロアリ外来新種

日本の生態系に猛威をふるう外来種。ついに、家までが脅威にさらされている。

最近、シロアリ駆除業者の間ではあるデータベースが話題になっている。そこには、大字までが記された地名がズラズラと並ぶ。

この地区でシロアリ駆除の依頼があつた場合は、もう一つの可能性も考えておくように、と。

国内でシロアリといえば、日本全土に生息するヤマトシロアリと、本州・四国・九州の沿岸地域に生息するイエシロアリ。どちらも湿気がある場所を好むので、生息するのは家の床下に限定される。だが、床下は全く問題がなくても、家がシロアリに侵食されているというケースが増えてきた。

アメリカカンザイシロアリ。北米大陸原産の外来種だ。1976年に江戸川区で発見され、近年各地で被害が確認されている。爆発的な繁殖力で瞬く間に全国各地に広がったブラックバスなどに比べ、カンザイシロアリの繁殖力は低い。その分、上陸から30年たった今、ようやく

## 港・米基地から全国へ

被害が顕在化してきたのだ。

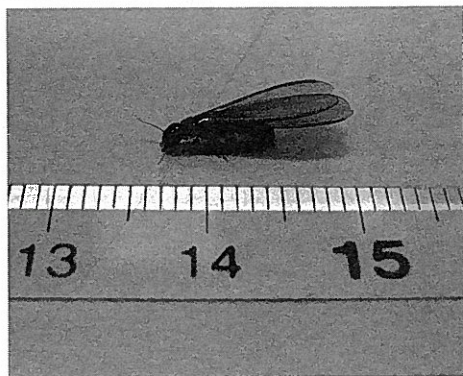
かつて時には大黒柱までやられていて手の付けようがないというケースも多い

「日本しろあり対策協会」の理事で、関東白蟻防除の社長でもある南山和也さんは話す。

「今も業者の8割ほどはカンザイシロアリを見たことすらない。業者ですらこうですから、見つ



アメリカカンザイシロアリに食われた家の柱。下にある大量の粒がシロアリのフンだ



カンザイシロアリの羽アリ。ヤマトシロアリに比べるとやや大きい

引越しなどがあつたのか、仙台市や広島市などでも被害が確認されている。

生息はヤマトシロアリ、イエシロアリとはまるで異なる。カンザイシロアリの名前の通り、乾材を好み、巣は壁や天井裏などに作る。飛行して近隣の家へと被害を拡大させ、家の材木だけでなく机や棚といった木製家具にも巣くうのだ。一つの巣に

ヤマトシロアリは数万匹単位で生息するが、カンザイシロアリはせいぜい数十〜数百匹単位。その代わり、巣が多い。巣を見つけるには、電磁波を使う専用の機械で壁を丹念に調

べら必要がある。だがそうした器具を備える業者は少なく、発見するのが難しい。素人でもわかりやすい手がかりは砂粒状のフンだが、目に見える場所にあるとは限らないために完全な手がかりにはなっていない。

## 不動産の下落要因にも

駆除方法も異なる。普通のシロアリなら床下に薬剤をまけば被害は止まるが、巣をたくさん作るカンザイシロアリの場合は一つの巣を駆除したところで効果は薄く、巣を全部見つけようと思えば家の壁を全部はいでしまわないといけない。

本場のアメリカでは、家全体をシートで覆ってガスで燻蒸する。ところが、住宅が密集して隣家との距離が近い日本では物理的に不可能なことも多い。結局はわかる範囲で巣を探し、薬剤を注入していくという地道な作業を繰り返すことになる。

発見も駆除もしにくいという厄介な外来種。複数の駆除業者に取材をしたが、どこも口をそろえたのがこの言葉だった。

「カンザイシロアリが発生しているとなると不動産価格に影響を与えてしまうので、細かい地名だけは出さないでください」

編集部 加藤勇介